平成３０年度「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業」成果報告書

団体名	福岡教育大学附属福岡中学校

Ⅰ　概要

１　選択したテーマ

テーマ	取組項目	選択
①交流及び共同学習を継続的な取組とするために、教育課程への位置付け等、組織的かつ計画的な取組の在り方に関する研究	（ア）通常の学級に在籍する全ての児童生徒等に交流及び共同学習の機会を学校として計画的に実施するための方法に関する研究	○
	（イ）障害のある児童生徒及び障害のない児童生徒等が、交流及び共同学習を通じ、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むために、交流及び共同学習のねらい、事前学習と事後学習、年間指導計画への位置付けの効果的な工夫に関する研究	○
	（ウ）通常の学級の担任などの教職員が主体的に交流及び共同学習に取り組むための体制整備の在り方及び教職員の意識向上に関する研究	
	（エ）ＩＣＴを活用した交流及び共同学習に関する研究	
②学校間交流や居住地校交流等を進めるための関係する教育委員会との連携の在り方の研究	（ア）特別支援学級が設置されていない小・中学校における学校間交流を推進するための学校と教育委員会の連携の在り方に関する研究	
	（イ）高等学校おける学校間交流や居住地校交流を進めるための学校と教育委員会の連携の在り方に関する研究	
	（ウ）学校間交流や居住地校交流等を進めるための市町村教育委員会と都道府県教育委員会又は市町村教育委員会と市町村教育委員会の連携に関する研究	
	（エ）居住地域の小・中学校等に副次的な籍を置くなど、居住地域との結びつきを強める工夫に関する研究	
③障害のある大人の人との交流や地域における高齢者等の世代を超えた交流の在り方に関する研究	（ア）障害のある大人の人との交流に当たり、福祉部局や社会福祉法人等と連携したネットワーク形成に関する研究	
	（イ）教育委員会と地域の関係者による「心のバリアフリー連絡協議会（仮称）」を設置し、取組状況や実施体制などの成果と課題について協議するなど、地域に心のバリアフリーの意識を啓発し根付かせるための研究	
	（イ）高等学校の生徒や特別支援学校の高等部の生徒が、継続的に地域の障害のある大人の人との交流をするための方策に関する研究	

２　事業概要

１，本事業の目的

附属福岡中学校の特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習を通して，互いの理解を深め，通常の学級の生徒の多様性を尊重する心を育てることを目的とする。その際，以下の内容を留意し本事業を推進していく。

○　交流及び共同学習の対象を学校内から学校外へ広める。

○　中学生としての発達段階を踏まえた障害者理解を促進するための交流及び共同学習の在り方を探る。また，附属福岡中学校では，「障害者理解」のゴールとして，「多様性を尊重する心」，「障害の有無に関わらず自他ともに価値ある一員であると認め合うことができること」であると考えているが，この事業を通して，中学校段階で求められる「障害者理解」とは何であるかという点も探っていく。

○　交流及び共同学習の効果を高めるための事前･事後の学習の在り方を探る。

２，本事業の概要

テーマを「スポーツと文化で学ぶ『ダイバーシティ附属福岡中』」とし，中学生の発達段階を踏まえ、次のように「こころのバリア」を定義した。

障がいをもつ人と障がいをもたない人が互いを知らないが故に、うまく交流ができずに戸惑ったり、思い込みによる誤解が生まれたりすることこと。

また，以下にあげるような障がい者理解を目指し，本事業に取り組んだ。

障がいのない生徒が、障がいのある生徒に必要不可欠なサポートから障がい者理解が深まり、障がいのある生徒と共に同一の行動を行いそれが強化されることで、共生社会の実現への理解を広げること。

スポーツにおいては「ファインピック（福岡市中学校特別支援学級総合体育大会）」における運営補助を中核の取り組みに据え，文化芸術では本校「文化発表会」における合唱・ミュージカル（特別支援学級）の共同発表を中核の取り組みに据えた。本事業で得られた成果については、平成 31 年度末を目途に、リーフレットを作成し、福岡県内をはじめ九州地区の中学校に広く発信していく。また、同じ内容を本校ホームページに掲載し、広く社会に対して発信していく。さらには、附属福岡中学校の教育研究発表会や授業づくり研修会の機会などを利用して、本事業の成果を具体的に発信していく。

３　事業の成果

【Ａ：スポーツ】について

①「学年スポーツ大会」における成果

本校，通常学級生徒１年生は例年福岡市中学校総合体育大会「ファインピック」の競技補助を行っている。共に生きる集団づくりを目的に取り組んでいるものであるが，今年度はその効果向上をねらい，事前に，誰もが参加でき，活躍できる「ペタンク」などを行い，特別支援学級の仲間と交流することができた。

②「ファインピック」における成果

「持久走」や「ボーリング」などの競技補助などを中心に運営に参加した。競技が円滑に運ぶことの達成感や特別支援学級の生徒の競技へ向かうひたむきさを実感し，周りに気遣うことや助け合うことの大切さや周りに支えられていることへの感謝を感じることができた。さらには，相手の立場に立った行動の重要性に気付く事ができた。

③「障がい者アスリート講演会」における成果

車いす陸上選手で世界各地の車いすマラソンで活躍されている炭谷延幸さんをお迎えし，講演会を実施した。実際に競技用車いすに試乗したり競技の映像を視聴したりすることで「パラアスリートのすごさ」を肌で感じることができ，そこから障がいがある人

に対して私たちができることは何かを考えることができた。

④「義肢装具士講演会」における成果

義肢装具士の嬉里さんをお迎えし，義肢装具の特徴や義肢装具士としてのやりがいをお話ししていただいた。ここでは，一人一人の違いに応じた配慮の大切さを学ぶことができた。また，障がい者に対し何ができるかを考える目的で参加するファインピックに向けての意識付けをすることができた。

【Ｂ：文化芸術】について

⑤「文化発表会」における成果

本校では文化発表会において毎年特別支援学級の生徒によるミュージカルを行っている。特別支援学級の生徒から，昨年通常学級の生徒がミュージカルで一緒に踊ったり，手拍子したりしてくれてうれしかった，という意見があり，今年度はミュージカル実行委員会を発足し，通常学級の生徒と特別支援学級の生徒の一体感をもてるような取り組みを考えさせた。これは特別支援学級生徒のお願いという形ではなく，「一緒に考えていく」という姿勢を重要視した。教師と共に協議を重ねた結果，特別支援学級生徒の負担，時間的な制約を考慮しミュージカル最後の歌を一緒に歌い，特別支援学級生徒が考案した振り付けをするという結果になった。当日までの練習はお互い楽しく盛り上がり，一緒に作り上げていくという一体感を生み出すことができた。

⑥「言いたか放談」における成果

本校では，総合的な学習の時間の中で，あるテーマに沿って意見を述べ合う「言いたか放談」という学習活動を行っている。１年生において，学校の内外でバリアフリーをすすめるにはどうすればよいか，通常学級の生徒と特別支援学級の生徒が一緒に楽しめるスポーツは何かをテーマに考えを述べあった。実際に交流の機会となっている昼食交流において，相互理解が促進されるような具体的な取り組みを考えることができた。

⑦「ユニバーサルマナー教室」における成果

ユニバーサルマナーを身につける必要性を実感させ障がい者の特性を理解したうえで関わろうとする態度を育成することを目的として，株式会社ミライロから田中利樹をお招きして学習会を行った。学習会の内容は，バリアフリーとユニバーサルデザインについて，知的障がい者（肢体不自由，聴覚障がい，視覚障がい含む）への対応の仕方，高齢者への対応の仕方であった。障がい者や高齢者の方と関わり方を明確にすることができ，様々な人と関わり向き合っていくために常に歩み寄っていく姿勢が大切であることを考えることができた。

４　事業の課題とその解決のために必要な取組

今年度の成果と課題を次に示す。

○　障がいがあってもなくても同じ人間として，どんな困難があっても前向きに努力し，目標をもって生きることの素晴らしさを実感する生徒が増えた。

○　障がい者一人一人の特性を知ること，特性に応じた関わり方や支援の大切さを実感し，生活の中で「心のバリアフリー」の視点をもって活動しようとした。

●　「心のバリアフリー」の取り組みを日常生活に浸透させていくために，通常学級の生徒と特別支援学級の生徒が一緒に活動し，交流する機会や環境をさらに整えていく必要がある。

次年度に向けて，今年度の取り組みをベースに共生社会実現に向けた「一人一人の創意工夫に基づく主体的な取り組み」を推進していく。具体的には，通常学級と特別支援学級の生徒が日常的にふれあえる場の設定をおこなう。また，パラアスリートを招き，講演会だけでなく競技交流の機会を増やす。さらに，文化発表会のミュージカルにおける通常学級と特別

支援学級の交流，総合的な学習におけるテーマの設定を付加・修正する。さらに，事業の客観的な評価のために，教育センターなど第三者から推進委員を招聘し，定期的に協議会を開いてアドバイスをいただく。